

太田川放水路探訪

◆みささ（三篠）の川とは

古より伝えられる歌、「永遠に流るる三篠の川で」の三篠の川とは広島三角州を分流しながら流れる太田川のことです。太田川は別名「御篠川（みささがわ）」と言われました。「御篠川」は太田川とその支流・分流が笹の葉を重ねた形に似ていることから名付けられたと言われています。

「みささ」は当会の名称、部誌・会誌の書名に使われ、また艇名にも使われてきました。

みささ創刊号でナックルフォア「みささ」の命名について、山本博先生の次の記述があります。

「みささ」とは太田川の愛称で、広島市内で七つの川に分かれていた。（放水路の工事で福島川が埋め立てられ六つの川になった。）七つの川に分かれる少し上流から分かれて海に至るまでの総称が三篠川、広島では「みささ」と名付け愛されてきた。

当会の名称が「みささ会」となったことについての説明資料は見当たらない。「みささ」第2号で、「みささ会」の記述が現われてくる。

尚、現存する三篠川は一級河川で、東広島市豊栄町を水源として、芸備線沿いに南下し、芸備線下深川駅の近くで太田川本流に合流しています。



広島市内鳥瞰



上流より放水路を見下ろす

◆太田川放水路の歴史

さて、我が漕艇部の練習場である太田川放水路、廣大漕艇部が太田川放水路に拠点を構えたのは1969年に幸午橋西詰に艇庫・管理舎を設けたことに始まります。丁度その時期は放水路の完成時期に当たります。それまでは艇庫も無く元安川、御幸橋付近を練習場としていました。

放水路は総延長10キロに及ぶ水路ですが、通常の放水量は少なく干満により河口より海水が上下している。従って川と言っても干満により流れ方向が反転するという特色を持っています。水位の高い時の放水路は類まれな練習場となりますが、水位の低い時は川底が現われ、練習水域も狭まり、練習場としての環境は良好とは言えません。かつては中国学生ボート大会も放水路で行われ、エイトの2000メートルレースも行われました。現在の放水路で開かれるレガッタは、太田川オータムレガッタ、広島市民レガッタに限られています。

現在の部員は放水路があるのは当然のこととされているでしょうが、放水路は広島の治水のために造られた人工の川です。この機会に放水路の歴史を振り返ってみることにしました。

広島市は、典型的なデルタ地帯に都市が形成されています。旧広島市は、そのほとんどが、平地であり、干拓の歴史でもあります。かつて、広島城は、海に近いところでしたが、今では、市の中心部に位置しています。デルタ地帯の宿命は、川との戦いでした。太田川は、広島県西部の冠山にその源を発し、太田川の上流部は、中国地方でも雨の多い地域です。広島市を流れる太田川は、市内で7本の川に分岐し、「水の都」を形成する傍ら、低地部分では頻りに水害を起こしてきました。

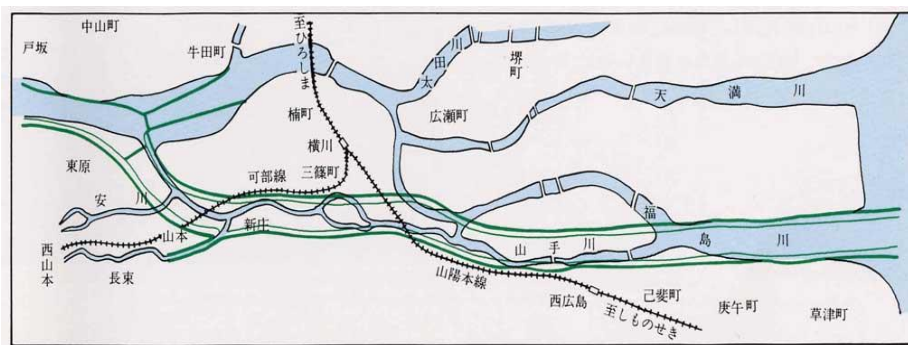
それを、解決してくれたのが、太田川放水路の建設です。広島市内の川は、西から山手川、福島川、天満川、本川（旧太田川）、元安川、京橋川、猿候川の7本の川が流れていましたが、西側の福島川と山手川の2本の川を1本にまとめ、太田川放水路としました。大雨の時には、市内に流れる5本の川へは少なく、多くの水量を、1本の放水路に流すようにしたのです。流量は、西区大芝にある祇園水門および大芝水門の2つの水門で調整しています。

放水路の建設は昭和9年に着工し、戦争で中断（昭和19年～25年）後、昭和42年（1967年）に完成しました。

戦後の混乱から、工事を再開したのは、昭和26年になりましたが、工事は急ピッチで進められました。昭和36年、放水路の要である祇園水門と大芝水門の建設が開始され、昭和40年に両門が完成し通水式が行われています。両水門は治水の要のポイントです。通水式後、残っていた堤防が完成し、昭和42年、太田川放水路は、着工してから36年の歳月と145億円（平成2年換算で約3,200億円）の巨費、そして沿川住民に少なからぬ犠牲を強いて放水路工事は完成した。

太田川放水路の完成の後、広島では大雨による浸水被害や洪水がなくなり、安心して暮らせる町になりました。100万都市広島を創った太田川、それゆえに災害に脆弱だった広島市ですが、太田川放水路は広島市の安全と発展に大きく貢献しているのです。

尚、現在は上流に造られたダムの影響で、洪水を起こすほどの水量になることはほとんどなく、河川敷には色々なレクリエーション施設もできています。



太田川放水路計画図

福島川と山手川を利用して放水路を開削

太田川放水路の経緯

1927	昭和02年	太田川改修計画の骨子策定 (福島川と山手川を利用して放水路を開削)
1932	昭和07年	帝国議会において太田川改修費を予算付け 太田川改修のための用地測量着手
1934	昭和09年	太田川改修工事起工式
1944	昭和19年	太平洋戦争による中断
1951	昭和26年	本格的工事の再開
1961	昭和36年	大芝水門、祇園水門の工事開始
1965	昭和40年	大芝水門、祇園水門完成、5月通水式
1967	昭和42年	放水路完成



1960年旭橋完成時、上流は掘削中



放水路始点、祇園水門



2014年に完成した ⑮広島南道路橋

◆放水路に架かる橋梁

	名 称	路線名	構造
上流	① 祇園大橋	国道 183 号	鋼橋
	② 新庄橋	県道 277 号古市広島線	鋼橋
	③ 三滝橋	市道三篠三滝線	鋼橋
	④ 可部線鉄道橋	J R 可部線	鋼橋
	⑤ 竜王橋・新竜王橋	市道西 1 区 192 号線	鋼橋
	⑥ 山陽新幹線鉄道橋	J R 山陽新幹線	鋼橋
	⑦ 山陽本線鉄道橋	J R 山陽本線	鋼橋
	⑧ 山手橋	市道西 1 区 265 号線	PC 橋
	⑨ 広島西大橋	広島高速 4 号線	鋼橋
	⑩ 己斐橋	県道 265 号伴広島線	鋼橋
	⑪ 新己斐橋	市道比治山庚午線、広島電鉄本線	鋼橋
	⑫ 旭橋・新旭橋	国道 2 号線 (新広島バイパス)	鋼橋
	⑬ 水管橋		鋼橋
下流	⑭ 庚午橋上流橋・庚午橋下流橋 庚午橋立体交差橋	市道霞庚午線 市道西 2 区 190 号線	鋼橋
	⑮ 広島南道路橋	広島高速 3 号線 (南道路)	鋼+PC



①祇園大橋



⑨広島西大橋



⑪新己斐橋



⑫旭橋



⑭庚午橋

出典：国土交通省中国地方建設局太田川河川事務所他